

平成16年6月期 第二級海上特殊無線技士 試験問題

法規 12問 } 24問 1時間  
無線工学 12問

法 規

[1] 船舶局（義務船舶局を除く。）の免許の有効期間は、次のどれか。

1. 3年
2. 5年
3. 10年
4. 無期限

[2] 次の文は、電波法施行規則に規定する「レーダー」の定義であるが、 内に入れるべき字句を下の番号から選べ。

「レーダーとは、決定しようとする位置から反射され、又は される無線信号と基準信号との比較を基礎とする無線測位の設備をいう。」

1. 再発射
2. 発射
3. 探知
4. 誘導

[3] 第二級海上特殊無線技士の資格を有する者が、25,010キロヘルツ以上の周波数の電波を使用する船舶局の無線電話で国内通信のための通信操作を行うことができるものの最大の空中線電力は、次のどれか。

1. 5 ワット
2. 10 ワット
3. 50 ワット
4. 100 ワット

[4] 電波法に基づく命令の規定に違反して運用した無線局を免許人が認めたときは、電波法の規定によりどのようにしなければならないか、正しいものを次のうちから選べ。

1. その免許人を告発する。
2. その無線局の電波の発射を停止させる。
3. その無線局の免許人にその旨を通知する。
4. 総務省令で定める手続により、総務大臣に報告する。

[5] 無線従事者が電波法に基づく命令又はこれに基づく処分違反したとき、総務大臣から受けることがある処分は、次のどれか。

1. 6か月間の無線設備の操作範囲の制限
2. 1年間の無線局の運用停止
3. 無線従事者の免許の取消し
4. 6か月間の業務の従事停止

[6] 船舶局の免許状は、掲示を困難とする場合を除き、次のどの箇所に掲げておかなければならないか。

1. 受信装置のある見やすい箇所
2. 通信室内の見やすい箇所
3. 送信装置のある箇所
4. 無線局の適当な箇所

# 法 規

〔7〕 無線通信の原則として無線局運用規則に規定されているのは、次のどれか。

1. 無線通信は長時間継続して行ってはならない。
2. 無線通信は有線通信を利用することができないときに限り行うものとする。
3. 無線通信を行う場合においては、略符号以外の用語を使用してはならない。
4. 無線通信に使用する用語は、できる限り簡潔でなければならない。

〔8〕 無線電話通信において、応答に際して直ちに通報を受信しようとするとき、応答事項の次に送信する略語は、次のどれか。

1. OK
2. 了解
3. どうぞ
4. 送信してください

〔9〕 無線局が相手局を呼び出そうとするときは、遭難通信等を行う場合を除き、一定の周波数によって聴守し、他の通信に混信を与えないことを確かめなければならないが、この場合において聴守しなければならない周波数は、次のどれか。

1. 自局の発射しようとする電波の周波数その他必要と認める周波数
2. 他の既に行われている通信に使用されている周波数であって、最も感度の良いもの
3. 自局の付近にある無線局において使用する電波の周波数
4. 自局に指定されているすべての周波数

〔10〕 無線電話による遭難通信の送信速度は、どのようなものでなければならないか、次のうちから選べ。

1. できるだけ速い速度
2. 緊急の度合いに応じた速い速度
3. 送信者の技量に応じたできるだけ速い速度
4. 受信者が筆記できる程度の速度

〔11〕 船舶局が無線電話による緊急信号を受信したときは、遭難通信を行う場合を除き、少なくとも何分間継続してその緊急通信を受信しなければならないか、次のうちから選べ。

1. 2分間
2. 3分間
3. 5分間
4. 10分間

〔12〕 無線電話通信において、自局に対する呼出しを受信した場合に、呼出局の呼出名称が不確実であるときは、無線局運用規則では応答事項のうち相手局の呼出名称の代わりに次のどれを使用して直ちに応答しなければならないことになっているか。

1. 貴局名は何ですか
2. 反復願います
3. 誰かこちらを呼びましたか
4. 再びこちらを呼んでください